

1. 主な研究内容について

私たちの研究グループでは認知症、高次脳機能障害、統合失調症を対象として、評価・介入技法の開発について臨床研究を行ってきました。主に次の三つを研究課題としてグループで取り組んでいます。

- 1) 認知症の認知機能障害、日常生活活動、行動心理学的症候、QoLの評価・介入について
- 2) 脳血管障害や頭部外傷などの器質的損傷による高次脳機能障害の評価・介入について
- 3) 統合失調症など精神疾患の認知機能障害の病態評価について

2. 主な共同研究先

さわ病院、今井病院、伊丹今井病院、済生会茨木病院、京都民医連第二中央病院、岡本病院京都岡本記念病院、オレンジホスピタル

3. 今まで指導した修士論文名

なし

4. 主な論文

- Nagata Y, Tanaka H, Ishimaru D et al. (2018) Development of the Japanese version of the Quality of Life in Late-Stage Dementia Scale. *Psychogeriatrics*, 18(2): 106-112.
- Fukuhara K, Ogawa Y, Tanaka H et al. (2017) Impaired Interpretation of Others Behavior is associated with difficulties in Recognizing Pragmatic Language in Patients with Schizophrenia. *J Psycholinguist Res*, 46(5): 1309-1318.
- 田中寛之, 永田優馬, 石丸大貴 他 (2017) 家族からのビデオレターによる Simulated Presence Therapy が言語的混乱行動を軽減させた認知症高齢者の一症例. *作業療法*, 36(2): 223-229.
- Tanaka H, Nagata Y, Uematsu M et al. (2015) Development of Cognitive Test for Severe Dementia. *Dement Geriatr Cogni Disord*, 40(1-2), 94-106.
- 田中寛之, 植松正保, 小城遼大 他 (2014) 認知症患者における認知機能、ADL、BPSD の関連性 重度認知症患者に着目して. *老年精神医学雑誌*, 25(3): 316-323.
- 田中寛之, 植松正保, 永田優馬 他 (2013) 重度認知症者のための認知機能検査 Severe Cognitive Impairment Rating Scale 日本語版の臨床的有用性の検討. *老年精神医学雑誌*, 24(10): 1037-1046.

5. 現在の指導している大学院生数

M1 : 1名

6. どのような大学院生の受け入れを希望するか？

当ゼミでは国内だけでなく国際的水準に合わせた研究を進めたいと考えています。また、研究グループに所属する大学院生・研究員の皆さまは、ご自身の臨床現場でデータを収集されている方です。対象者に反映できる研究をしたいと考えられている「熱心で高い志のある方」「粘り強く研究を続けることができる方」を募集します。経験年数は問いませんので、我々とともに成長できる方を受け入れたいと考えています。

ゼミは、認知症、高次脳機能障害、精神疾患に関する英語文献の抄読会を中心に、学会・論文発表前には個別ゼミ、少人数ゼミなど適宜目的に応じた形で行いたいと考えています。